

「ホメオパシーの科学性」 ～その作用とメカニズム～



Part1 ■ 4月29日(祝)：大阪産業創造館

第0部【午前】ホメオパシーから「社会人基礎力」を考える

通商産業省が2006年から提唱している「社会人基礎力」。「社会人基礎力」とは、「多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」とされ、「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」の3つの「能力」を、さらに「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の12要素に分けたものとして提唱されています。

しかしこういった「基礎力」は、ただ「仕事を行っていく上で」必要なだけではありません。一人の人間として、周囲の人々と関わりながら生きていく中で、当然すべて必要となるものです。

ホメオパシーを学び実践してゆく過程では、実は通常の意味以上に、「社会人基礎力」のすべてを問われます。ホメオパシーの学びに求められる「社会人基礎力」とは？ あなたの「社会人基礎力」を、ホメオパシーを通じてとらえ直してみませんか？

◇講師：永松昌泰（ハーネマンアカデミー学長）

第1部【午後】：「科学的根拠に基づく（Evidence-Based）」とは？

ホメオパシーは、しばしば「科学的根拠がない」と言われます。「原材料物質の成分がなくなるまで希釈しているのだから、作用するはずがない」「ホメオパシーには二重盲検法が適用されていない」「ホメオパシーは『単なる』プラセボ以上のものではない」などなど…。しかしそれらの見方は、ホメオパシーに「科学的根拠がない」理由に本当になり得ているのでしょうか？

伝統的なホメオパシーで行われているのは、健康な人間に作用を引き起こすことが確認されているレメディーを、詳細な観察の結果、その作用と「似ている」状態にある人に投与するということです。そしてそのときに重視されているのが、その人の身体・精神を含めた「全体性」です。このセミナーでは、実際のケースを通じて、ホメオパシーが根拠としている「全体性の詳細な観察」と「類似性」について詳説いたします。

その中で、「科学的根拠」という言葉の真の意味と、医療や教育の現場で重視されはじめている「科学的根拠に基づく（Evidence-Based）」という言葉の真の意図が、皆さまの眼前に明らかになることを願っています。

◇講師：永松昌泰（ハーネマンアカデミー学長）

▶次回予告

Part2 ■ 7月19日(祝)：大阪産業創造館

第2部【午前】：数学と量子力学の視点から

「目に見えない」ミクロの世界の法則は、実は「目に見える」形で明白に現象として表現されている！ 「科学的思考」によって「目から鱗を落とせば」見えてくる、ホメオパシーが根拠にしている世界観。

◇講師：永松昌泰（ハーネマンアカデミー学長）

第3部【午後】：生物学の視点から

旧来の「生物」「人間」「医学」「科学」の概念を覆す鍵が、ホメオパシーの中にある！ 過剰で脆弱な情報と、偏りある経済循環の流れの中で「生命」の本質が見失われつつある現代を生きるための、最先端の生物学研究を紹介。

◇講師：松本文二（琉球大学理学部海洋自然科学科准教授）